

新學日記  
後編

中村俊定文庫  
文庫 18  
803





少ふあまのきこへてはなほ  
なほの海もあつたはなほ  
なほなほしつゝもなほなほ  
のほのほのほのほのほのほ  
こゝろのほのほのほのほのほ  
はなほのほのほのほのほのほ





かやき〜〜の海に渡るも〜  
きりぎりすの音に〜  
た〜〜の〜  
序き〜の川流るる

みどり子午の〜



鶴巢日記存編



儿こ

山の梅雪を〜  
甘地〜向ひま  
〜風也  
〜体李  
〜乙  
〜也  
〜李

李  
也  
乙  
大



あゝ春に嵐の小口を海よもせて  
先系文をさ〜〜〜  
長持をきてゆりしハツカ  
乳香の如くをほきやうする

乙 也 乙  
季 大

儿乙倭〜〜〜  
あうもあもさ〜〜〜

歳且之詞

神をやかも川きま〜子まの扱  
元日もひろ色にりり山乃雪  
元日も枯木ひろふやサアの家  
万々に流れて〜りり松の風

兵コ 万 柳  
正ト 南 井  
イセ 南 巖

乾坤

師入〜〜〜  
松をれるか見ゆ〜  
西月や昔〜〜〜

栗ッ 采 大  
夕ハ 主 由 小  
南 老



花家長の詩やそれけりや喜む  
やふ入やき〜か〜る目の斜  
杭うてハキ〜余をそのいさりり  
房〜りい〜事海を余を  
山の余をおも〜け〜ん中夕  
川〜人〜かんの軽日うか  
喜を〜鶯のあ〜す海老のう〜  
い海を〜舟もな〜ぬ三井の澄  
喜を〜ゆ〜のさや〜りア

共蹊

アツミ 眉取

ヒコ 久松丸

カメ、 青持

ワカサ づを

イカ 梅安女

ヲハリ 黒

上モ 哥竹

アツミ 花朴

せにかうきこのち老あれ喜の家  
松葉〜雪ぬる宿や宵ら〜き  
雪とけの常言と〜日の暮る  
親の建〜石の花表や〜り家  
け〜ち〜や〜き〜る〜る〜る  
お家の家ハ〜あ〜わ〜く山家  
喜吹ち〜も〜え〜て〜い〜そのほ  
障るの中も〜りすむ山乃家  
子の戸を出て目の〜る〜あ〜か

抗お 四水

ヲハリ 金樵

アツミ 滝琴

タシハ 冊柄

ノト 洞亭

ワカサ 奇峰

イセ 臥山

ハリ、 琴士

梅勢



川也うゝ鹿河けりね捨木山  
 我の幸に奪うり方や鹿む中  
 憂む戸や捨てて這入去此吟  
 のうさや法の誇る是あけ言  
 長栄さ此新やき〜里の裡  
 陽光や教あ〜よ涙漱る言  
 陽光やあ〜〜出はる我の舟  
 陽光や〜る粟津を詠りて  
 永き目と〜く痛〜あよ舟の中

木曾 枕三  
 タニコ 妻路  
 十三ハ 星譜  
 ノト 沙旌  
 アフミ 必中  
 京 九萼  
 イセ 青岸  
 ツルカ 豊産  
 イヨ 喜陀

朝東風にるのよほひうき〜り危

山中峠少て

喜風のちとひ〜りや京あかみ  
 あまあ〜と喜のほ〜ひ〜きぬ  
 春風のよ〜こ道の又〜ぬ水田うる  
 春風の一日吹〜る舟る暈  
 清〜の〜は〜は〜ら〜り喜のる  
 喜雨や細子〜ら〜ぬゆら海  
 喜るのぬ〜〜につくや春戸の海

イカ 花麻女  
 アフミ 麦洋  
 カ、 雅泉  
 イカ 欣持女  
 タニコ 魚道  
 タニコ 蒼此  
 タニコ 馬名  
 フハガ 堀翁



高き増とりきや其乃由

ワカサ 柳井

其の月や桜くし庭に座す肩

カタ、 旭舟

其のお女さ由や富士おとん

伊奈 六

其のおやう大いのもおとあ

ワルカ 乐土

あはるおや人おとくうははのき

イセ 雲角

湖の上夜あふにふえ家勝く

ホ山 虚白

あはるあての月をかくもおろ

ホ芳 乙女

立並小桌も月乃あはる

ヒセ 庭橋

まらうき法の高やおほは

ヒセ 射柳

草部一統の夕アを離るを

ワカサ 白炭

流道とまきまにかうれて其の雪

ノト 柳眉

只ひと何飛のくきりりもはれ

シナ、 雲山

大ちや料ね小きふら家と

フシニ 常二

ま川風のきも漏れあり其乃水

少年 屋藏

壁にうれておもいねをや其の月

イセ 棋堂

人を叫ぶさ由や小舟のいゝの月

ヒコ 素堂

精の夢ハ其のあありと海乃月

アヲ 文和

出ち人に當るの戸へ来て其の月

アヲ 若谷



善の舟よけに後、主ワカサの地

舟に入て、筆とり、善の舟、風也

此善のう、ろせり、舟の舟、カ、璣、舟

天氣、て、瓶、波、も、え、く、以、善、の、善、エト、孤、山

植物

善の、ち、ぬ、て、ハ、善、一、善、ろ、善、エト、玉、光

善、善、や、む、う、ひ、よ、善、く、人、の、一、善、ヲ、ハ、リ、而、后

善、善、や、妙、履、く、善、の、つ、ま、善、善、タ、ハ、山、舟

善、善、と、梅、よ、く、善、一、善、ひ、さ、し、ヲ、ハ、リ、山、舟

善、善、の、れ、よ、善、一、善、梅、提、て、雪、君

善、善、の、つ、う、善、一、善、梅、の、善、本、海

善、善、の、も、子、善、善、一、善、梅、の、善、イ、セ、墨、釈

善、善、返、て、善、善、一、善、梅、の、善、善、直

善、善、の、善、善、一、善、梅、の、善、善、地

善、善、の、善、善、一、善、梅、の、善、善、平、冲

善、善、の、善、善、一、善、梅、の、善、善、花、瓢

善、善、の、善、善、一、善、梅、の、善、善、麻、旋

善、善、の、善、善、一、善、梅、の、善、善、由、之



裏のやもかりあう梅のしれ  
 うちには小家の風のけうき  
 標折て着てりしやかられ登  
 福ん入て登ししやも鳴にりり  
 ちつうか枝うしちやうのむ  
 袖の質斗梅を折しよこし  
 梅咲や河返りてと枝のうらこ  
 大ふりに花のけきりり出ろ標  
 ひつぎあてあもや小家のけと梅

蛙井

雀橋

御風

可貞

市經

三考

旧雪

蜂舎

淇夕

浪の音きくあかほを字免ろをれ  
 梅うまよひよひしちやあを雀  
 咲しうにあまをねしう免ろを  
 梅うまよひしちやあを雀  
 咲梅のうらにあまをねし  
 梅きれてまき河原をうらを  
 けりよてハまし梅ハ田のあはし  
 あうく子の門をあれは梅を  
 ま梅の古里人うち葉う葉

タシコ 芝計

ワカサ ふうま

磯 蒼々

ヒコ子 柯山

ウサシ た子

イセ 聖渡

リ梅 五錐

万栖

幽嘯



り病りちうゆ柳のりきうき

カ、きく女

錦いとうろくまきゆやあき

アツミ、船瀬

一本あまのうらつら柳の系

ヒユ子、毒付

よいあをつくや柳う長つこ

タシハ、珊瑚水

大名のまれて遊り柳う登

ワルカ、そのま

あまの懐をまかれてまわつひよ

あまのあつらうこの出のなまのあ

あまのあつらうこのあまのあ

女の素姓もあまのあまのあ

まはら柳り夕日浅り柳あけ

タシハ、不四

茎立の大根海りり内やあき

上毛、吼雪

柳あてりやあまのあまのあ

イセ、女立

牛いり馬あやあまのあ

岳コ、桐栖

まはらあまのあまのあ

カ、本株

まはらあまのあまのあ

カタ、芝梁

山松一本のあまのあ

ノト、表丈

よまのあまのあまのあ

ツルカ、履袋

葉のあまのあまのあ

本岩、奇峰



畠はくくけり毎ありて極のむ  
 さてハあろ極あり終の終の敷本  
 山ちやけくく時分の水とくくい  
 くくくくくくくくくくくくくく  
 ち五尺あれハ水何ぞけくあり  
 けく路のさふくくくくくくく  
 極持あすを日とさてみくくく  
 さくく日やあくくくくくくく  
 家魂をくくくくくくくくく  
 月君

ヲク 極測  
エト 堂堂  
ワカサ 尊丸  
フコ 仙海  
チクサ 一符  
イセ 吉哉  
イセ 白々  
タシハ 車丸  
メダテ 布席

花くく奪るふくくくくくく  
 又く日ふくく見ぬ日そちれよつうハ  
 いそくくくくくくくくくくく  
 山の家や極火よむの極く見ゆる  
 くくくくくハ学履もありてあは  
 終のゆきくくくくくくくくく  
 花うち家くくくくくくくく  
 ちれよ来て氣丈くくくくく  
 けくくくくくくくくくくくく

ヲク 極測  
エト 堂堂  
ワカサ 尊丸  
フコ 仙海  
チクサ 一符  
イセ 吉哉  
イセ 白々  
タシハ 車丸  
メダテ 布席



ちるまや木のふよのあゝ人乃魚 エノ 士明  
 あきしめのつうぬ日まるとあよき 大ウ 蕪布  
 福んりきてんれはちるありあのま  
 人オへこれの都きけふるあり  
 中たろしそハ夜咲涼山つる子 ミカハ 秋拳  
 山吹のちりり〜〜若れおほひうか サヌキ 夏塔  
 山あきおあり〜〜けえ替ふるあひ アフミ 鬼丸  
 赤檜やあ部の眼をけまは ワカサ 辻阿  
 ちりりは〜〜ちるも檜のけ ニナノ 風山

何指はまこれ嬉きてち〜子うあ ヲハリ 加笛  
 新魚のせくてあ〜のあ ウサシ 可布

生歌

常のあ〜のあ〜と井戸のあ 六 壺  
 常やあ〜のあ〜と新ろ門 蕉里  
 常やあ〜のあ〜と名上 ウチ 蕪岫  
 常やあ〜のあ〜と花さ ヒコ 菜之  
 常やあ〜のあ〜と若水 アフミ  
 常のあ〜のあ〜と小 イセ 牛舎



嘗も海めて 舟るりま川の存

舟持化

嘗やりのの葉をまへり 餅せん

伊丹 千鶴

子さふか妻あもあふに 啼き存

ト 晩籬

鳴りさるり 沖もや比は波あき日

夕千代 士草

乙子此見去り 魚あり角大汝

アフリ 雨沙

稚子啼や 峠 朝ももさのちう

切見女

田を賣て 手おハ 扇も啼り 免

雪旋

一日の水 災一や 扇家かり

布雪

急坂や 人のさきれを ゆり

ウチ 一路

うら返 浪もものよ 暮の存

タニハ 俵尻

朝さう 妻さむも家の 酔りか

ナニハ 万和

高ふち 不ニ 足ても 啼き

大ツ 梅價

象代 の 飛も 折ふ 樹う 存

イセ 采友

水うて 川やうくく ころ 千 蠶の 後

イセ 其江

條ひとり 振切 せて あハ 是く

タニハ 源古

條の 末て 志川 ころ ころ 水

タニハ 竹崖

啼りの こと 是も 知らず 母 存

イセ 万海

ゆき 出て 船を 受け 田 櫻

イセ 井里



つぎ出た後や田舎の暮出

フニコ 収麦

名倉

夕暮のあまきくろあり畑け

ワカサ 三記

ふ事故夏

名倉や合巻——ふ花論の笛

泊吏

交 乾坤

短歌のあうりもや 杭 ち 踏

アキ 篤老

短歌とつきおされりう角以 杖

タシコ 柳紫

短歌や音のまゝお家水此泡

カ、 栞葉

短歌のこ——もまれや木の葉り

ヒノ 竹窓

明あき夜毎に去——天ろ川

タニハ 其鶴

歌日や嵐の影よ風か海家

タニハ 万葉

かやつまゝ蚊燭——這入ぬ字の存

九美

短——の二階よんゆゑ 垣牀小

備美



切やつ道ハ渾火又ゆる柱うち

フニコ 麻差

入梅時や鶯の飛びつきのうら

タハ 玉崎

五月の日の影もて来りり子の蔓

京 由儀

五月雨の才やあゝえぬきお

仙子

けえたりまや古手八丁のきり

杜雀

井に来て啼きよる涼〜かうぬき

エト 左節

涼〜さや末のまゆ山一とらり

蕉雨

涼〜さを恙にうけらるはの甚

アツミ ちぢ女

涼〜さうらあきまて涼〜借度

チクコ 慶五

涼〜さに蓮のと〜ぬきり信

ヲハリ 其花

本〜の葉り光り涼〜きり

秋園

このむ〜のきき〜や苔れ上

エチコ 蕙畝

夕暮〜この山暮るあふ

ヲカサ 了々

引けのちりきりえしてまの

フニコ 暁花

ふるれとまにあれやうけり

タハ 恒葱

足洗ふ目とありりりか苔清水

ハリマ 吟翁

日暮れハあせとありぬ 簞

玉屑

夜をなうきり〜とあま 簞

路周



交乃板や門さあまて人の立 タニハ 丹鬼  
 六月半踏小ぬまの嶺乃学 アハチ 日葵  
 初々く日も暮ふそまぐ氷室 タニハ 雪雄  
 火々天や並くしやうか山名家 タニハ 氷坡  
 山あましして又てある門や交の月 アヲミ 秋月  
 交の月字も新しゆ舞系う存 ハリマ 一系  
 とく風を清小小藪や夏乃三 ハリマ 風也  
 ところすてもあてれこし交の水 ワカサ 奇峰

植物

日永さうちるも隙ほらん タニユ 魏草  
 ありしと柱うろろ牡丹 ヲハリ 芳洛  
 我袖の風ろろえと侍牡丹 アヲミ 九島  
 裡に秘てけむや牡丹の音字 ヲミ 箕山  
 ちふしひの氷よまきるほん ヲミ 鶴橋  
 又てみより厚き江の上の吹水 ヲニユ 巢化  
 る漏や山あもまふかき エト 十丈  
 山里ハ傘 エト 窓々  
 法門ちれハ又ぬ日もあいら エト 乙彦



有唯のむそと見れとりのち

チクカ  
素葉

川上の新よひ出れりう紫うた

イセ  
白織女

朝うろよくあさすりし若葉うか

タニハ  
若外

杣う家のわうらに輝る燈呂吹り

チクユ  
立志

湖よりしろえすもく若葉ふく

チクユ  
嵐阜

初家より馬子外や日う柳

チクユ  
万柳

小流道や舟のむよとれるるの色

チクユ  
舟雲

若葉やほふはもをくに流る言

アツク  
若雅

筆のま山ほくはのひううき

アツク  
乙雀

藤の子やぬきとくきくまのち

申舟

船舟に起すくまの田う急うれ

松舟

紫跡をのつて福てあうや雲う門

ワカサ  
之道

ゆりの花をぬきもものあひつき

アキ  
玄蜂

渚水のあつうひや不台のやと

カタ  
文常

友葉にまあきくぬあ

芦友

うきまのあのかきとまのゆうりか

リサキ  
万友

落馬してうつはあうり合歌のむ

イカ  
成花

きも福にまるとはうり之福子のむ



栗のふちうや藤おち結乃う

ふか山 頑丈

吹風のらん

ヲク 吾人

新市にあつて涼

スマ 花重

旅中にもあきけ

西月

生類

新日のおうあ

チクコ 思成

人の上にたつ

ヲハリ 梅間

控へ出ふけ

午風

幕ふとそれぬ

ナニハ 奇洞

雨空の晴き

ハリマ 字史

一帯に夜のき

タニハ 吾丸

花屋

虎屋

入おの隣に

ワカサ 文鳥

垣牛とま

故道

地と踏ぬ

シナノ 祥山

中道

チクコ 一茶

山のおき

チクコ 兼汝

焯のふれ

幻化



夕せえろあきあきやうにうに危 大ツ 儿乙

鳴のあゝ葉をわらうときの一たう 大ツ 古猿

朝中をうきえてまのうき葉う サヌキ 北映

風をきく一葉をわらうとき イセ 楚山

るよあゝあやあやう サヌキ 芦栖

念已の息え合すや物う ミノ 楚萑

夜食

交衣えりれてあゝ 冬コ 相君

妻の本にあゝんてえり 京 九姜

るるのてりり 大ツ 親聖

子にあけハ叶の葉く 大ツ 樗全

箸あゝのせて 大ツ 蒼虬

公事故変

蝶の来てあゝ ウサ 青荷

くく馬一らん 大ツ 柘年

神歌

鶯の子れ人 十二八 壽城

すく風の芒につ 大ツ 南柯



舟の来り秋冷まじりや露月堂  
むらり

秋  
乾坤

夕きの秋つくまゝ病る鏡の亭  
巻八

立於や楳の掬あきまじり  
魯園

秋風のまじりや柳の夕日  
我雪

溪萩に足まじりくわく萩銀河  
ち三

早きまじりハ春のくせあり浪僕  
桂眉

子の秋れ妙悪まじりや西の雨  
荻中

船書ハをくまおろし水  
勇水

内佛のくまも照るやまの月  
貞松

真ふくく人あやまらるる月  
風也

秋風やまの鏡のほくまじり火の  
万栢

秋風の木末あまじり成ふりり  
荻峰

す川山のまじりまじり夜の虫し  
杞栢

新まじりまじりもたまじり  
蕨雨



お宿やとこをたづねるそのまはり

フニコ 葵

このま——まはりをたづねるそのまはり

ハコタテ 子猫

常盤のまはり——まはりをたづねるそのまはり

イセ 塩

陸のまはり——まはりをたづねるそのまはり

ミノ 月守

三日のまはり——まはりをたづねるそのまはり

タシハ 武陵

ひく位おほき——まはりをたづねるそのまはり

フシミ 千海

まかりて——まはりをたづねるそのまはり

ナニハ 希孫

そのまはり——まはりをたづねるそのまはり

風也

あつたまはりのまはり——まはりをたづねるそのまはり

アツミ 伊勢

十六夜のまはり——まはりをたづねるそのまはり

オク 乙二

十六夜に——まはりをたづねるそのまはり

ソルカ 水

まはりや秋を——まはりをたづねるそのまはり

ナニハ 井眉

子のまはり——まはりをたづねるそのまはり

ヲハリ 山

糸代をまはり——まはりをたづねるそのまはり

イセ 鳥

糸のまはり——まはりをたづねるそのまはり

リカ井 俎向

結りまはり——まはりをたづねるそのまはり

ナニハ 斗

お玉やまはり——まはりをたづねるそのまはり

ミカハ 卓池

まはり——まはりをたづねるそのまはり

鶴棲



大船の旁をもて来て海より入り

フシコ 雲二

子の戸や旁にもある夕輝

イセ 番民

子の月よりそよ風のさる度

カ、 千崖

あき、葉の移る儘るそ秋の水

依田 一扇

よてももる手ささけりるや娘

ヲハリ 月庭

け秋や一まぢりききき野の標

アフリ 枳儿

植物

まゝも今ハあ〜〜と花落る梧

ハリマ 五芳

か〜〜の〜〜と具合や一葉ちり

京 九葉

船鳥よあうあせ〜〜と帆うけ

アフリ 月坡

葉や〜〜にあけハつ〜〜と合

フカ子 白水

女をむ秋と〜〜と〜〜と

ウサシ 栗交

灯の〜〜とあ〜〜とあ〜〜と

アフリ 舟唄

〜〜と秋に〜〜と〜〜と

アフリ 枳有

咲〜〜と人〜〜と〜〜と

イセ 栗人

まぬ〜〜と人〜〜と〜〜と

ヲハリ 大蕨

る氷の〜〜と〜〜と

タニハ 猿年

〜〜と〜〜と〜〜と

イセ 筆存



母の字の喉やよめ草のまきの敷 イセ 巴文  
 あつらふあつらふの百の糸瓜のま ヲハリ 素丹女  
 さくばり一りき程の糸瓜のま エト 五道  
 誇り着て来いと笑いと門の糸瓜 アフリ 護物  
 子休等のまきとあつらふ糸瓜 タンコ 柵哥  
 ちりつげて遊一きりり母のま ワカサ 万頼  
 ゆゑ上のまきはありぬむす ヒニコ 芳雨  
 葉のまは吹込てあつらふ糸瓜 フシミ 夕露  
 ちりまきの一掃ききりあつらふ イセ 山崎

照ね秋や葎の下とま ヲハリ 阿雪  
 吹風に時のさや夏にこれりり シナノ 収基  
 猿のまのまはあつらふ糸瓜 イセ 何頼  
 ちりま田よ這む糸瓜のま イセ 雪雄

生類

虫のまのまはあつらふ糸瓜 イセ 毒樓  
 ちりまけあつらふ糸瓜 ヲハリ 雀棲  
 ちりまけあつらふ糸瓜 イセ 野秀  
 ちりまけあつらふ糸瓜 イセ 茂東



廿二

麻の糸さきの上風吹おろし

ワカサ

逸中

神原と無りめて合ん老うあき

ナニハ

長高

牛の雨あかしくやうて原乃原

タチニ

吹角

厂令の事なきやうすや海れき

アフリ

沟蕨

夕山と川まじりりり原の群

タニハ

里蕨

夜食

き礎まの落あむ地ろひき

タチニ

筆文

ふくれ来てまふまめさぬ

カタ

斗行

蜀黍と月うさげとて門きぬ

其成

方角のけきりま司う碇う年

ナニハ

公路

冬

乾坤

日の入るよきや小卒の海う上

アフリ

朗月

子さきに山とあてて神原

と山

確乎

法師の翁を飾り中一くれ

風舌

川喜の才とくこしとち

アフリ

喜水



志られん〜〜〜あきま〜〜ぬ露の香

来章

いせ海をの〜〜〜れて志〜〜〜夕まを

文柳

ま〜〜〜しの明〜〜〜るハ志〜〜〜さりし

定雅

何〜〜〜も杉風〜〜〜るか〜〜〜川を〜〜〜るまを

蚩海

柴山と枕にまの〜〜〜のおくお〜〜〜まを

田房

あ〜〜〜く〜〜〜は〜〜〜ぬ〜〜〜終〜〜〜まを〜〜〜る門

芝石

神雪のま〜〜〜あ〜〜〜つ〜〜〜くと牛の〜〜〜喰ま

干當

ま〜〜〜り雪のま〜〜〜りま〜〜〜す〜〜〜て夢〜〜〜ひ〜〜〜るり

桂兔

〜〜〜神ま〜〜〜す〜〜〜と〜〜〜りあ〜〜〜て這入や〜〜〜あ〜〜〜と〜〜〜り

う然

と〜〜〜り〜〜〜く〜〜〜あ〜〜〜るや〜〜〜牛〜〜〜あ〜〜〜す〜〜〜雪の〜〜〜お〜〜〜と

イセ 省吾

世の雪排〜〜〜る〜〜〜る〜〜〜は〜〜〜り〜〜〜る〜〜〜る

アツシ 文嶺

雪にお〜〜〜を〜〜〜降〜〜〜く〜〜〜く〜〜〜り〜〜〜て〜〜〜吹〜〜〜け〜〜〜る

其則

降積〜〜〜雪〜〜〜ら〜〜〜り〜〜〜軒の〜〜〜お〜〜〜あ〜〜〜るま

リ妙 业尼

雪の粒又〜〜〜お〜〜〜と〜〜〜ま〜〜〜あ〜〜〜き〜〜〜に〜〜〜り〜〜〜り

フハリ 我竟

松れ雪〜〜〜降〜〜〜る〜〜〜降〜〜〜る〜〜〜あ〜〜〜る〜〜〜足〜〜〜て〜〜〜と〜〜〜む

本号 鞠光

介粒の〜〜〜雪〜〜〜登〜〜〜る〜〜〜家〜〜〜ら〜〜〜り〜〜〜き〜〜〜え〜〜〜神〜〜〜る

京 九美

雪の屑〜〜〜お〜〜〜と〜〜〜り〜〜〜か〜〜〜れ〜〜〜て〜〜〜あ〜〜〜る〜〜〜ま〜〜〜と〜〜〜く

カ、 内守

顔見えの〜〜〜う〜〜〜ろ〜〜〜ろ〜〜〜あ〜〜〜う〜〜〜や〜〜〜と〜〜〜粒の〜〜〜雪

カ、 野菴



つて来て 呼吸するにあり 空の香

冬ハ 存茶

冬の日れさけ やま家の 膳の上

松亭

さくられと 藤よと や母の 切り

双危

さくられ やまのく 赤い

其風

さくられのり き定めて 呼吸

素既

さくらハも やまのり ぬき

丹秀

さくら 舞のり あり 不中のる

梅人

涙をく 毎火く やまのり

鶴樓

涙とえー 雨を 桜乃 冬乃 存

風也

木のあり 乃え 中を 崖の 表を あり

ヲハリ 木也

蓮ののり 乃え 乃て けく 赤い

三峰山 對雪

層々 壑々 乃や 乃ま 乃く 乃き 乃く 乃き

カ、 魯石

植物

鈴風や 茶の心 澄る 乃く 赤い

ワカサ 中若

三のら 乃き 乃ひ 乃る 乃く 牡丹

カ、 其翠

乃り 乃り やまのり 水の 乃れ 乃き

ハリマ 文竹

乃り 乃り つきて 乃り 乃の 乃く 乃き

ワカサ 蒼虬

乃り 乃り 乃り 乃り 乃り 乃り 乃り 乃り

ワカサ 竹葉



下後ハ喜山カクのこゝろふゆつと

夢寺

生類

水多を見うけりあつる小坂うた

杜夢

色に〜年のまゝ日中ひり多き

ッルカ 仙子

子山や軽〜り〜とあ〜子多

多山 多業

牛馬尻き〜りひろくあつと

竹坡

木の葉ふりちひさ〜るんあつ

イセ 麦村

〜〜〜わ人のあつれけつと

エト 久藏

雪に息あせ〜ま〜あり仔細

アラミ 花陶

細代本の存よ思ひし早もし

胡存

衣食

〜く言〜す〜あ〜細きけ

雪雄

歳暮

多強と出ふ返屋や年のくれ

万柄

松明の火れ若あ〜と〜ハ

友甫



先師朱樹翁の記念の一

政院の字ちより願わ

満るに捨るてらの路み

本わりの吹中むつるま

士朗

冬の目結る跡ふ結垣

呂川

砂川れ砂よりあはく世を

夙也

うらひはすきと人のらひ

朗

有唯とあれはまにるま

也

きのわは舟き本瓜城より

朗

門のまき森も馬番のお

也

ととハ岩念との燕

朗

橋のまゆや神をぬも

也

山ほささげ志のひ

麻野

か茂川の舟を二おき

朗

まこころうり子留

也

小言り人ありろき

朗

うそをききうに吉舟

也

浪あまて舟の浪来の

大阜



念佛まじりの傍都まじり

川

夕ぐれの花一ととに火を焚きて

梅回

塚乃露れもくらの暮り

草

中歌仙一折

追加

嘆へもちあはるのまじり

夕チマ 美鹿

雪もくらのハ

月守

涼〜さやねりよあまの産の月

全

是〜のぬいぢりまは梅のまれ

一水

茶外て茶をのむ〜や蟬のま

全

戸草〜や丘にち〜と町のええて

全

翅板にま〜の舟や色〜

全



道か

船あきけハあちちるきうんの花

木居

梅ちやちちうきくきく様のも

川良

日のさきさきあましきり峰

永士

葛垣ハ朝の果を采古き

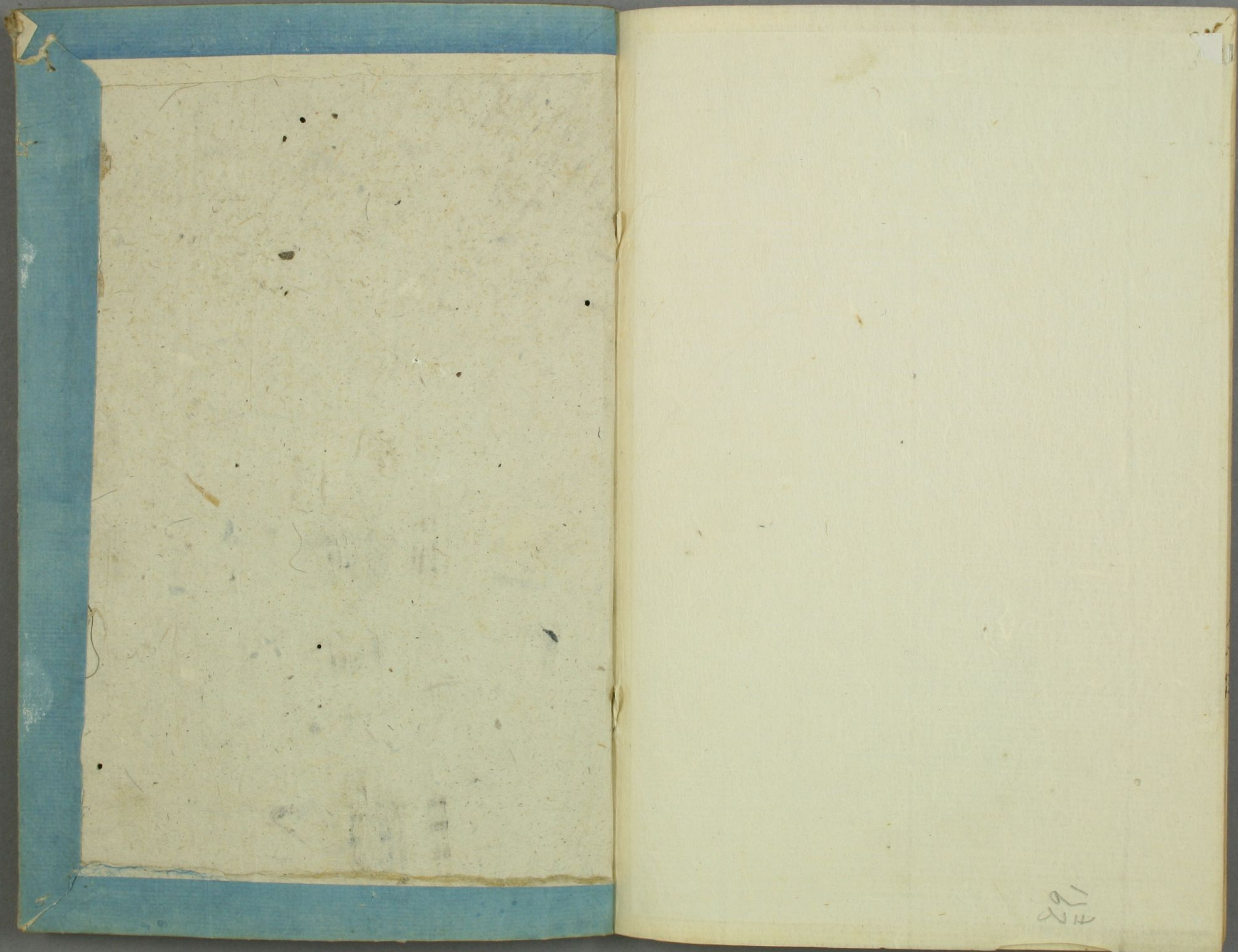
松月

とくあきくあまあひてんきくえん

栗三 ヒコ子

京高倉四條下町  
御相物所菊屋平兵衛





132



